

京都府主催の雇用型職業訓練

京都府専門的技術人材緊急養成プロジェクト【電気工事士養成コース】

令和3（2021）年11月18日 UM7担当講習の開始にあたり（挨拶）



有志6社のひとり 山科 隆雄委員からの挨拶
(山科電気工事株式会社 代表取締役／一般社団法人京都電業協会 副会長)

おはようございます！ 只今ご紹介頂きました山科（やましな）でございます。
4名さんと伺いましたが、歓迎の言葉を申し上げたいと思います。

今回のこの電気工事士養成コースの運営に関して、私ども京都電業協会は「後援」という立場で関わらせて頂いております。その団体の副会長の山科です。

そんな立場なのですが、打合せをしていく中で、会員有志6社の社長さん方の情熱に大変引き込まれまして、その6社の中に入らせて頂いて、今回、私も皆様方と一緒に勉強させて頂きたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

コロナ禍で大変な状況の中でお過ごしになってこられたと思います。その間の心の葛藤とか大変であつただろうな、と推察しております。そんな中で、この「電気工事」という道を選択して頂きましたことを心から嬉しく思いますし、また我々の世界への「歓迎」という気持ちを表したいと思います。

大変な状況ではございますが、私たち自身、電気工事の会社を経営している者にとりましても、そこで働いて頂く社員の働き方、例えば年長者シニアや女性の活用などが、私たちにとつても大きな課題になっております。この業界は、従来は男の世界でしたが大きく変わりつつあり、**私たち自身がまず変わっていかなければならぬ**な、と感じています。ちなみに弊社は18名ほどの小さな会社でございますが、最近、女性の技術者2人に入ってもらえて、更にCADを扱う人や見積もりを作るなど工事そのものに直接かかわる人が4名ほどに増え、本当にそういう時代になったなと実感しております。

挨拶というには長いと感じますが、もう少しお時間を頂きまして弊社の話をさせて頂きたいと思います。

シニアについても、従来は65歳定年が世の常でしたが、今は70歳までの雇用努力義務が企業に課されております。弊社では、義務化以前から70歳までの雇用延長制度がありました。時代の先取りだとお思いかもしれません、実は、**働き手が少ない中で年配の方の力も借りねばならず、必要に迫られた中で雇用をどんどん延長していたのが実態**であります。

弊社には、いま80歳のシニア、現役が居ります。ついこの間までは82歳まで活躍していた社員が居りましたが、残念ながら今年退職しました。その次の方が80歳。「今まで俺は2番目に若かったんや」みたいなことを言う社員です。他に、先日70歳で雇用契約を結び直した人もいます。

そんなわけで、私ども必要に迫られてこのような業態になっております。ある意味で、世の中を先取りし、固有の磨いてこられた技術を捨てることは本当にもったいない話で、若い人に伝えて頂くことも必要です。会社に座ってデスクワークで、或いは後進への指導で力を発揮してもらう、こんな時代が正に訪れているのだなと思います。

先ほど、弊社の女性社員のことを申し上げましたが、女性の技術者が2名入ってくれまして、ちょうど2日前から高校生インターンシップを弊社が受け入れております。従来は私も加わり「あーだ、こーだ」とやっていましたが、今回は女性2人に任せました。本

人のインターン経験も活かし3日間の計画を組み立ててもらいました。出来たプランを見ると、若い人が興味を持つであろうプログラムが出来上がっていました、今回来ている学生さん達に電気工事への興味をもっててくれていることも知りました。

会社も、「社員の、働いて頂く方の働き方」を変えていく、そんな時期に来ていると感じております。そんな中で、皆さんと一緒に、電業協会がお引受けするのは13日間ですが、一緒に学ばせて頂きたいというのが基本姿勢でございます。よろしくお願ひいたします。

(終了と早合点した者が拍手)

まだ、話は前段です(笑)。予め中山さんに断っておいたのですが…

もう少しお時間を頂いて、私が電気工事に関して感じていること、今思っていることについて、お話しできればと思います。

実は、弊社は、明治26年に創業しまして128年を迎える電気工事会社です。電気工事会社の中で優れた会社はいっぱいお有りなのですが、「ただ古い」という意味では京都で一番歴史の長い会社です。

私はそんな家に生まれまして、小さい時から理科系の科目がどうも苦手、電気は最悪な苦手コースでした。私の兄は電気工事が好きだったので兄が会社を継ぐと思っていました。ところが、いろいろ紆余曲折がありまして(中略)、結論として、私が会社に入ることになりました。初めの頃は、電気工事について困ったなあと過ごしておりました。

弊社は施工管理をする会社ですが、最初は、「覚えるため」に私が電気工事士免許を取得して、現場に電工として派遣されました。初めて私が派遣されたのが染色工場の鉄筋コンクリート3階建ての現場でした。そこでは沢山の失敗をやらかしました。

例えば、染色工場の床には水を流すので、床をきれいに仕上げる訳です。左官屋さんが綺麗にコテ作業で塗った後で、入っては(踏み入れては)いけない、とても注意して仕事しないといけないのですが、配管に電線を通す作業が工期的にどうしても必要になりました。配管内に電線をいきなり入れても通らないので、まずはスチール線、次に呼び線、最後に呼び線に結わえた電線を通す作業をしましたが、当時はスチール線をただ巻き取っていただけなので、スチール線が暴れて床に「綺麗な模様」を付けてしまいました。左官屋さんに激怒され、謝罪を重ねて何とか事なきを得ましたが、現場といえばそんなもの、という時代でした。

その後も失敗は重ねましたが、何とか無事竣工を迎える、竣工の日、お客様の前で設備1つ1つに電気が通じていき、拍手が起り、最後に機械のスイッチが入った瞬間、お客様の表情が充実感で満ち溢れていくのを見て、「電気工事は素晴らしい仕事」と感じました。そういう経験を踏まえ、その先は色々努力を重ね、現在に至ります。

あるスーパーゼネコンのキャッチコピーに「地図に残る仕事」というものがあります。たしか大成建設さんの登録商標だったかと思いますが、それに近い体験を、私たちも出来るのではないかでしょうか。13日間の訓練コースの中でも、私たち6社が施工した作品を見て回って頂くハイキング企画も準備しておりますので、お楽しみにして頂きたいと思います。

最初、私は電気工事士としてスタートしました。続いて施工管理に携わり、営業活動にかなりの期間従事した後、経営全般の管理を経て今に至ります。

先に申し上げたように、電気工事には「電気工事士」の資格と、電気工事の施工を管理する「施工管理技士」の資格、主に2種類の資格があります。「電気工事士」と「施工管理技士」の両方が必要で、どちらか一つ欠けても電気工事は成り立ちません。

施工管理技士が立派でも電工がいなければ施工できません。逆にどんなに腕の良い電工がいても施工管理が上手く進まなければよい作品は出来ません。音楽という演奏者と指揮者の関係に似ているように感じます。

電気設備工事においても「工事」と「施工管理」の二つの側面があり、両面で成り立っていることを知っておいて頂ければと思います。まずは電気工事士の養成から始め、いろいろな方面へ進んで頂くことになろうかと思います。施工管理の他にも、図面を描いたり、資材を調達したり、仕事を頂きに行ったり、見積書を作成したりと、すべてが揃って初めて「電気工事が出来上がる」ことになり、色々な事がこの先の可能性としてあるということを、開講にあたり知っておいて頂きたいと思います。

え～、長々となりましたので、「この辺りで纏めろ」との顔をしてはりますが…
(山科副会長が中山座長を見る。座長は「もっと聞かせて」と煽っている)

このコースでは、後ほど話して頂きます中山座長から、今回この企画を紹介して頂き、有志のメンバーでやろうではないかとなりまして、6社の社長が集まって準備をスタートいたしました。何ぶん、私どもは電気工事の施工管理の専門会社ではありますが、こういう研修や勉強

については苦手というか、講師業を職業にはしておりませんので、お聞き苦しい・わかりにくい点があるかもしれません、6社が毎週のように会議を重ねて準備を進めてきましたので、「一緒になって、これから電気工事の世界で頑張って頂く」というお気持ちで過ごして頂ければと思っております。

2つお願いをしておきます。

きっと、わからない専門用語を使ってしまうことがあります、わからないことは放つておかずには質問して下さい。確認してから次に進んで下さい。

もう一つは、せっかく縁あって出会われました皆様方ですので、私も含め、この学びを通じまして「良い仲間」になっていければ有難いな、と思います。

この二つをお願いいたしまして、「大変長い」ご挨拶になってしまいまして申し訳ありませんが、皆様への歓迎の御挨拶とさせて頂きます。

どうぞこれから13日間、よろしくお願いいいたします。

正式名称	京都府専門的技術人材緊急養成プロジェクト【電気工事士養成コース】
事業主催	京都府
運営受託	シンク・アンド・アクト株式会社
技術監修	ULTRA MAN 7(SEVEN) PROJECT (有志連合6社) 鳳電気土木株式会社・晶和電気工業株式会社・東邦電気産業株式会社 中島電気工事株式会社・北陵電工株式会社・山科電気工事株式会社
後方支援	一般社団法人京都電業協会（有志企業の活動に協賛）

6社+協会=UM7

私たちは、空はとべない、敵を倒さない。でも、未来は明るくできる（かもしれない）。
まずは「やってみましょう」、です。